

# 令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明石小学校

## 学校の教育目標

○進んで学びよく考える子	○力を合わせやりぬく子
○やさしく思いやりのある子	○健康でたくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって「わかる授業、できる授業、楽しい授業」を実施する。</li> <li>・夕やけ教室（放課後補習教室）、毎朝10分間の朝学習・朝読書を計画的に実施する。</li> </ul>
--

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は8.6ポイント、5年は12.9ポイント、6年は10.6ポイント上回っている。また、4・6年は前年度の校内平均、全国平均ともを上回っている。</p> <p>▲6・4年は「書く」、5年生は「読み取り」「話すこと・聞くこと」に課題がある。</p>	<p>○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身に付いている。</p> <p>○昨年度に比べ話し合い活動を多く取り入れた授業を行い、「話す・聞く」の正答率が上がっている。</p> <p>▲タブレット化が浸透し、書くという行為に意欲的に取り組めない子がいる。</p>
算数	<p>○令和6年度学習力サポートテストにおいて、正答率は全国の平均を4年生は11.7ポイント、5年生が14.3ポイント、6年生が14.2ポイント上回っている。</p> <p>▲自分の考えを説明したり、発展問題に苦手意識を感じたりする児童がいる。</p>	<p>○習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習の徹底により、個に応じた指導の効果が表れている。</p> <p>○授業開始の3分間、単元に関係する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力が定着している。</p> <p>▲文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表させたり、根拠の説明をノートに記述させたりするなどの指導が不足している。</p>
社会	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は6.4ポイント、5年は9.7ポイント、6年は8.5ポイント上回っている。5年は0.6ポイント、6年は0.7ポイント区の平均も上回っている。</p>	<p>○実際に見学をしたり、タブレットを活用して調べたりする等、社会的事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。</p>

	<p>▲資料を適切に読み取り、資料から考えたり、調べたことを既存の知識と比較、関連付けて思考したりすることに課題がある。</p>	<p>▲地図、グラフ、年表等、様々な種類の資料に関する具体的な読み取り方の指導が十分できていない。</p>
理科	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は7.3ポイント、5年は6.9ポイント6年は8.3ポイント全国の平均を上回っている。4年は0.6ポイント、5年は0.2ポイント6年は1.1ポイント区の平均を上回っている。</p> <p>▲内容別正答率で見ると、4～6年生の中で3つの内容で区の平均正答率を下回っており、そのほとんどが「生命・地球」領域である。</p>	<p>○校内研究を通して、興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め、実験・観察を計画的かつ確実にやってきた成果が見られる。</p> <p>▲視覚的に捉えることが難しい単元（自然教材など）が十分に指導できていない。</p>
英語	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」において、6年は全国の平均を8.3ポイント、区の平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>▲内容別正答率で見るとイラストを見て、英文を完成する問題の正答率が区の平均を1.4下回っている。</p>	<p>○毎回の授業で必ずやり取りを行う時間を確保することで、外国語を発話したり、聞いた量が増えている。</p> <p>▲単語を答えることはできるが、穴埋めなどで正しい文を完成させる指導ができていない。</p>
体育	<p>○全学年、体力テストの合計得点は全国平均と同じもしくは高くなっている。</p> <p>▲3年生の男女共に、長座体前屈（体の柔らかさ）に課題がある。</p> <p>▲1年男子、5年生、6年生の50m走（走る力）に課題がある。</p>	<p>○休み時間に積極的に身体を動かしていることが影響している。</p> <p>○マイスクールスポーツの効果として巧緻性の高まりが感じられる。</p> <p>▲体づくり運動で継続して体の柔軟性を高める運動場面が少ない。</p> <p>▲ランニングフォームが適切でない。</p>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	○「令和6年度学習力サポートテスト」において、5・6年生は全国の平均を10ポイント以上上回っていたので、「令和7年度学習力サポートテスト」でも継続する。また、4年生は平均を10ポイント以上上回るようにする。
	算数	○「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ○4年生では「たし算・ひき算」5年生では「億と兆・がい数の表し方」の正答率を全国平均の10ポイント以上上回るようにする。
	社会	○「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ○「活用」の部分の問題について、昨年度に引き続き、全国の平均を上回るようにする。
	理科	○「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ○「生命・地球」領域の内容に関する問題の正答率が、全ての内容において区の平均正答率上回るようにする。
	英語	○「令和7年度学習力サポートテスト」において、6学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ○「書くこと」に関する全ての内容において、区の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	○「全国新体力テスト」において、合計得点が全国平均より上回るようにする。 ○長座体前屈と50m走の得点が全国平均より上回るようにする。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、児童の主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりを実践する。</li> <li>・年間を通じて、考えたことをノートに分かりやすく表現するノート指導の徹底を図る。</li> <li>・タブレット端末などのICT機器を効果的に活用した授業を展開（個別学習、グループ学習、一斉学習）で個の学びが深まる授業展開の工夫を行う。</li> <li>・話し合い活動の場を増やし、コミュニケーション能力を上げる。</li> </ul>	
③ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月、7月、12月の3回の個人面談、年間2回の保護者会等を活用し、家庭と十分に連絡を取り合って、家庭学習を確実に行うようにするとともにその定着を図る。</li> <li>・「授業」「学習活動」に関するアンケートの実施</li> </ul>	
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題である「長座体前屈」と「50m走」の学校平均が全国平均より上回るようにする。</li> </ul>	

↓

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の聞き方や発表の仕方の約束(明石スタンダード)の徹底を図る。</li> <li>・毎週2回程度の朝読書の時間や図書の間では、物語または、小説の読書とし、まとまった文章に親しませる。</li> <li>・年間2回の読書旬間を実施し、読書に親しむ機会を設定する。</li> <li>・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・「話す、聞く」については昨年度の研究を通して行ったことを生かし、グループ構成を考えたり、話し合い自体の目標を明確にしたりして意図的な話し合いの場を設定する。</li> <li>・「書く」活動を多く入れ、タブレットで文章を作成する活動とともに、紙に文字を書く活動も両立させていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習を徹底させ、個に応じた指導を行う。</li> <li>・授業開始の3分間、計算練習を行い、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。</li> <li>・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、計算練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象との出会いを工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れる。</li> <li>・実際に見学をしたり、タブレットを効果的に活用したりして、意欲的に調べ学習ができるように工夫する。</li> <li>・資料の読み取り方を丁寧に指導したり、資料を活用した話し合いを行ったりして、自分の考えや根拠を記述するノートづくりができるように指導する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や環境整備を行う。</li> <li>・既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートづくりができるようにする。</li> <li>・ICTなどを使い、視覚的にわかりやすくする。</li> <li>・単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫する。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語専科・ALTと事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業を進めることができるようにする。</li> <li>・単語を伝えるだけでなく、正しい文章を作り、伝えられるように指導を行う。</li> <li>・イラストなどを見て、自分で文章を考える機会を増やす。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスクールスポーツである短なわ跳びや長なわ跳びを継続的に取り組む。</li> <li>・体づくり運動で柔軟性を高める運動を意図的に行うようにする。</li> <li>・適切なランニングフォームを指導する。</li> </ul>

## ②授業改善

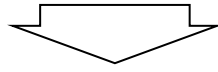
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習導入時の教材の提示方法や発問を工夫し、児童の「知りたい」「考えたい」という思いを引き出す主体的な授業づくりを目指す。</li><li>・授業展開の中で小グループでの話し合いを適宜行い、さらに個の思考が深まる授業づくりを目指す。</li></ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。</li><li>・自己解決する時間の十分な確保をする。</li><li>・授業場面に応じて、ノートとタブレット端末を効果的に使い分けて活用できるようにする。</li><li>・タブレット端末や実物投影機等の ICT 機器を積極的に活用し、授業の効率化や知識の定着を図ることができるようにする。また校内研究の充実を図る。</li></ul>

## ③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・4月（希望制）、7月、12月に個人面談を実施し、児童の学習の状況（成績一覧がわかるプリントも使用）を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図る</li></ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校便りや学年便り、保護者会等を活用し、家庭との連携を深めると共に、タブレット端末を活用し、Google の Class room、tetoru やドリルパークでの家庭学習の配信を定期的に行い、家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li></ul>

## ④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・体育科の授業における体づくり運動で、柔軟性を高める運動を取り組ませるようになる。</li></ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・体育科の授業において、適切なランニングフォームを指導し、児童が実践できるようにする。</li></ul>



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・話の聞き方や発表の仕方の約束(明石スタンダード)の徹底を図ってきたことで、授業における自主的な学習態度が身に付いた。</li><li>・朝の読書タイムや年2回の読書旬間の充実、学年文庫の充実により、読書に親しむ習慣が身に付いている。</li><li>・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図ることができた。</li><li>・話し合いのグループ構成、目的の明確化により有効な話し合いができるようになった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「書く」活動の充実については、本年度の研究が「タブレット活用」と言うこともあり、なかなか両立が難しかった。来年度は全校に文字を書く活動をタブレット活用と両立して行っていくことを伝える。作文ほど長い文章でなくても良いが、国語以外の教科でも文章を書く活動を行うように伝える。</li></ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"><li>・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習を徹底し、個に応じた指導を行うことで、効果が表れている。</li><li>・授業開始の3分間、単元に関する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力の定着を図ることができた。</li><li>・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、計算練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図ることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表したり、根拠の説明をノートに記述したりそれを説明することには課題がある。ノートだけでなくタブレットを有効活用し、児童同士が互いに意見を交換し、問題解決の過程や根拠を説明し合う活動を積極的に取り入れる。</li></ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"><li>・事象との出合いを工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。</li><li>・実際に見学をしたり、タブレットを効果的に活用したりして調べ学習ができるように工夫することで、社会的事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料の読み取りや、資料を活用した話し合い、自分の考えや根拠を記述することが課題である。児童に資料を読む際の具体的な手順を丁寧に指導したり、児童が自分の考えや根拠を記述するノートを作る際に、モデルを提示して、どのように情報を整理し、記述するかがわかるようにしたりするなどの指導を行う。また、児童がノートをとった後に、教師の振り返りや評価を行う。</li></ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用した話し合いを行う際には、タブレットを活用し、グループで情報を共有し、他の児童のアイデアや視点を聞くことで、自分の考えを深めさせる。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め、実験・観察を計画的かつ確実にやってきた成果が見られる。</li> <li>既習の実験・観察の過程や結果を根拠として予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなどの学習活動を定着させることができた。</li> <li>単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫することで、基本的な知識の定着につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・観察の過程や結果から考察したことを記述するなど、思考を深めるノートづくりを向上させることが課題である。児童がどのように考察を記述すべきかを示すために、学年や時期に応じて、児童が自分の考察を書く際の手本となるようなモデルを提示するなど、丁寧に指導する。</li> <li>考察を記述する際に、友達同士で話し合いを行い、他の児童の考えや観察結果を聞くことで、自分の考察を深められるようにする。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>A L Tと事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業を進めることができた。</li> <li>A L Tの話などを聞く機会や児童のタブレットに入っているデジタル教科書を活用し、英語を聞く時間を増やすことができ、リスニング向上につながった。</li> <li>名詞、動詞のカードを使用し、文章を作り、4線を使って文章を書くことに慣れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で会話をするとき、例文を見てコミュニケーションをとろうとすることが課題である。例文を徐々に消しながらコミュニケーションの時はアイコンタクトを重視した指導を行う。さらにロールプレイを通じて、会話場面で他にどんな反応があるかを全体で考え、コミュニケーションを続ける指導をしていく。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間に積極的に身体を動かしていることや、マイスクールスポーツである短なわ跳びや長なわ跳びを継続的に取り組んだことで、巧緻性の高まりが感じられる。</li> <li>朝や休み時間にステップエクササイズやハンズクラブに取り組んだことで、柔軟性や、動きを持続する能力の高まりが感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切なランニングフォームを身に付けさせるために、陸上運動の授業内に指導し、実践させる時間を確保する。</li> <li>校内研究でタブレット活用が全校で推進されている。そのためワークシートとタブレットの両立の有効活用を目指して、表現力の育成を図る。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の考えをもつことのできる学習過程・学習課題の工夫、児童同士の交流を深める伝え合いの場の工夫を行い、児童のコミュニケーション能力を上げることができた。</li> <li>年間を通じて、ICT 機器を活用し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を活用した授業を展開できているが、より効果的な授業にするために特にグループでの話し合いや協働学習で、タブレットを活用した授業を行う。</li> </ul>

	<p>児童の主体的、対話的で深い学びを促す授業づくりを実践することができた。</p>	
<p>③家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月、7月、12月に個人面談を実施し、児童の学習の状況（成績一覧がわかるプリントも使用）を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図ることができた。</li> <li>・ 学校便りや学年便り、保護者会等を活用し、家庭との連携を深めると共に、タブレット端末を活用し、Google の Class room やドリルパークでの家庭学習の配信を定期的に行い、家庭学習の習慣を身に付けさせることができた。</li> <li>・ 少しずつ家庭や地域に開かれた学校運営となった。体育学習発表会、学校公開、音楽会などを公開できた。</li> <li>・ 学校や児童の様子を知ってもらうために、児童の学習の様子や生活がわかるような写真とともに学校からのホームページの情報発信を積極的に行うことができた。</li> <li>・ 保護者の方に学校評価アンケートの入力を推進することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価では、保護者や児童からも概ね高い評価であったが、Google Classroom や学校ホームページ等を活用し、さらに保護者の方に理解していただけるよう、教育活動の積極的な開放や情報発信に努めていく。</li> </ul>
<p>④体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育的行事委員会や委員会活動を中心に長なわ跳びや短なわ跳びへの取り組みを計画し、年間を通して取り組むことができた。</li> <li>・ 体育学習発表会や体力向上旬間に向けて学習カードや動画を作成し、児童一人一人がめあてをもち意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の授業や休み時間で、柔軟性を高める運動やランニングの機会を増やし、体育の授業や学校の活動をより充実させる。</li> </ul>